

トスカーナに投資する 価値に投資する

トスカーナで価値を生み出す企業を10年間
支援

注：本資料はイタリア トスカーナ州が作成した英語版の「Invest in Tuscany Invest in Values 10 years supporting those who produce value in Tuscany」を日本のイタリア大使館貿易促進部 (ITA) FDIデスクの責任で和訳したものです。英語版と和訳との間に情報の不一致がある場合は、英語版が優先します。

Note: This document is a Japanese translation of the English version of “Invest in Tuscany: Invest in Values—10 Years Supporting Those Who Produce Value in Tuscany,” produced by the Region of Tuscany, Italy. The translation was prepared under the responsibility of the FDI Desk of the Trade Promotion Section (ITA) at the Italian Embassy in Japan. In the event of any discrepancies between the English version and this Japanese translation, the English version shall prevail.



目次

トスカーナ、未来への投資に値する価値	3
トスカーナの卓越性と国際的な投資：10年にわたる成功.....	4
サンゴバン・グラス・イタリア	6
エッシンティ	9
リバティ・マゴーナ.....	12
イネオス	15
ソルベイ	18
ベイカー・ヒューズ.....	21
イーライリリー.....	24
ケルバー・ティッシュ	27
トリガーノ	30
ヴェナトール	33
ヴィテスコテクノロジー イタリア	36
GSK	39
ヤンマーR&D ヨーロッパ.....	42
タレス・イタリア	45
エサオテ	48
ケリング	51



invest in tuscany

トスカーナ、未来への投資に値する価値

トスカーナへの投資は、価値観への投資を意味します。この豊かな地に根を下ろすことを決めた国際的な企業グループは、このことを深く理解しています。彼らは長年、この地域で価値を生み出してきました。それは経済的な面だけでなく、社会的な安定性、地域全体に広がる生態系の保護と保全においても同様です。これこそがトスカーナを世界中で認知されるブランド名ならしめている所以であり、私たちの社会が特に困難な時期にある今こそ、絶えず守り、新たな価値を創造し続けるべきものなのです。

我々は前例のない公衆衛生と経済の危機に直面しています。この危機を乗り越えるためには「トスカーナ製」の価値を高めることが不可欠です。それが我々の再出発の原動力となり、世界に向けて発信できるメッセージとなるでしょう。トスカーナだけが提供できる文化的豊かさ、そして多様な風景を伝えるメッセージです。

当地域において大企業と中小企業の対立は存在しません。経済システムの各要素は相互に依存し合っているのです。新たな出発の鍵は、全てのサプライチェーン強化、イノベーション・デジタル化・循環型経済・インフラのグリーン革命の推進、そして我々を際立たせる知識と製品の保全にあります。

トスカーナ州投資促進局が10年間で培った経験により、企業危機と新規投資誘致の相乗効果を生み出すことが可能となりました。今後10年間の課題は、不採算企業を維持することではなく、一見成熟した産業分野の競争力を高め、リショアリング（海外移転した事業の国内回帰）を促進することにあります。これにより、あらゆる危機が必ず生み出す機会を活用するのです。

エウジェニオ・ジャニ

トスカーナ州知事



invest in tuscany

トスカーナの卓越性と国際的な投資：10年にわたる成功

ファッション、ライフサイエンス、スマート産業、デジタル&ICT、アグリフード、ヨット建造、観光、輸送・モビリティ。これらはトスカーナと急速に変化するグローバル環境におけるイノベーションの新領域を象徴する主要分野です。主役は主要産業分野のグローバルプレイヤーです。成長と国際化の過程で、彼らは大きな可能性を秘めたダイナミックな地域に拠点を置くことを選びました。

本書で紹介する**16社**は、ロボティクスからラグジュアリー、サイバーセキュリティ、製薬まで多岐にわたります。これらに共通する根本的な特徴は、いずれも著名な外資系多国籍企業でありながら、製造技術と職人技、起業家精神、確かなノウハウを備えた地域基盤に支えられ、トスカーナ地域に根を下ろしている点です。

しかし、これらの企業の物語は、トスカーナを世界と結びつけるもう一つの重要な共通点によっても支えられています。それはトスカーナ州政府が外国投資家向けに設置した機関「インベスト・イン・トスカーナ」であり、今年、活動開始から**10年**という重要な節目を迎えました。2010年より州知事の支援のもと、インベスト・イン・トスカーナは「好循環システム」の中核となり、トスカーナをロンバルディア州、ラツィオ州に次ぐイタリア第**3位**の外国投資誘致地域へと成長させました。

トスカーナ州には現在、**573**の外国資本グループに属する**785**社が存在します（EU 59%、北米17%、東アジア9%）。業種別では、製造業が**29%**、卸売業が**20%**を占めます。外資系企業の総売上高は約**280**億ユーロ、従業員数は約**62,000**人に上ります。最大の外国投資国はアメリカ合衆国（**144**社）で、次いでフランス（**130**社）、イギリス（**73**社）が続きます。ただし売上高ではフランスが首位（**90**億ユーロ超）、次いで米国（約**40**億ユーロ）です。従業員数でもフランスが**2**万人超でトップです。

本誌の事例が示す通り、インベスト・イン・トスカーナは多角的に活動しています。主な目的は**新規投資家の誘致**です。

トスカーナは常に、伝統と革新が互いに補完し合いながら共に前進する土地です。文化と景観がこの地域を美、卓越性、創造性、ノウハウの揺籃へと変貌させ、これら全ての強みを「トスカーナ投資促進機構」は強化し、海外投資家にとっての機会へと転換します。実際、この地域事務所は国際イベントにおいてトスカーナを海外にプロモートする役割を担っています。潜在的な投資家に対しては、ニーズを傾聴し、情報を提供し、新規進出先を探索し、内外の行政手続きを調整し、現地パートナー（サプライヤー、大学、公共機関）との接点を作る「ワンストップサービス」として機能します。一方、すでにこの地域で活動している主要な多国籍企業の有力者の中から選ばれた「トスカーナ・ビジネス・アドバイザー」たちは、自らの実体験を通じて、トスカーナへの投資がいかに有益であるかを証明しています。



invest in tuscany

トスカーナへの投資は「アフターケア」サービスも実施しており、既にトスカーナに進出した多国籍企業との継続的な連携活動を通じて、既存投資の維持・拡大を図っています。

実際、インベスト・イン・トスカーナは、地域行政機関や地元の中小企業との合意形成を必要とする成長プロジェクトや新規投資の管理に介入しています。地域事務所の取り組みは、特別プロジェクトの推進、各地域生産地区内でのパートナーシップ構築、トスカーナ州の研究センター・大学・機関との覚書締結に向けた活発な活動として展開されています。過去5年間で、州当局・地方自治体・企業間において約**40**件の覚書が締結され、地域における生産的投資の促進が図られてきました。地域レベルでは、ANCI（イタリア自治体全国連合）、フィレンツェ広域都市、トスカーナ自治体を対象とした覚書の採用により協力体制が強化され、**28**以上の機関主体からなる潜在投資家支援ネットワークが構築されました。これと並行して、コンサルティング会社や専門家からなる同様のネットワークも存在しています。

まとめると、これが「インベスト・イン・トスカーナ」の運営手法であり、地域に重要な効果をもたらす数多くの成功事例を生み出したシステムです。これらの国際的**巨大企業**の進出によって生み出された波及効果は、時を経て地域経済の成長、雇用創出、そしてトスカーナの世界的な威信向上につながってきました。

この事例集では、経済データだけでなく、何よりもトスカーナにおける企業の存在がどのように発展してきたかという物語を集めました。実際、トスカーナは単なる投資の地であるだけでなく、何よりも価値を生み出す地なのです。今日においても、そして今後**10**年間にわたって。

サンゴバン・ガラス・イ タリア

PISA



当社の歴史上の重要な局面において、トスカーナ州は常に最も効果的な戦略選択における理想的な対話相手でした

ファビオ・ダモンテ、サンゴバン・グラス・イタリア 取締役



[ウェブサイトをご覧ください](#)

ガラスから生まれる現代建築のための革新と持続可能性。

1889年当時、この工場は「ファブリカ・ピザーナ・ディ・スペッキ・エ・ラストレ・コラテ・ディ・ヴェトロ（ピサ製鏡・鋳造ガラス板工場）」として知られていました。1665年にルイ14世によってパリで設立されたサンゴバン社は、国際化の第一段階としてピサを選びました。

現在、このフランス系多国籍企業は世界的な主要産業グループへと成長し、70カ国に展開しています。イタリア国内だけでも27の生産拠点と約2,200名の従業員を擁します。しかしピサ工場は創業の地であり、歴史的な拠点として、当地域で最も重要な工場の一つであり続けています。売上高の相当部分（2019年時点で1億1,000万ユーロ）はトスカーナ拠点で生み出されており、この工場は19世紀の名称を捨てて「サンゴバン・イタリア」となりました。

1世紀以上を経た今も、ピサとトスカーナは変わらぬ競争優位性を提供し続けています。リヴォルノ港に近接した海運における戦略的地理的位置に加え、制度的・経済的・学術的基盤が重要な連携の形成を可能とし、2008年の建設業界における深刻な危機後の工場再建を支えました。

トスカーナ州は「トスカーナ投資促進プログラム」を通じて、当社の計画から除外された区域の売却投資を支援するとともに、高性能かつ省エネルギーを実現する新技術を備えたフロートキルンの改修を支援しました。

このグループの長いピサの歴史の中で、1965年という重要な年があります。この年、サンゴバンの最初のガラス板、いわゆる「フロート」が製造されました。それ以来、多くの変化があり、技術は進歩し、ガラスから、Gyproc（乾式システムおよび石膏ベースの漆喰）、イソバー（断熱・遮音・防水）、ヴェーバー（プレミックスシステム、漆喰・スキミング、塗料、防水、スクリード、接着剤）、エコフォーン（吸音天井、吊り天井用吸音材、防音壁ソリューション）など、建築業界向けの他の素材へと拡大しています。

サンゴバン・イタリアは、長年にわたる一連の買収と合併の結果として誕生した企業であり、これにより生産と主要市場の多様化が可能となりました。

直近の買収は2018年にさかのぼり、プラートに本拠を置くログリ・マッシモ社がサンゴバン傘下となったことで、ガラス固定システムの販売を通じた製品ラインの拡充を実現しました。

同社の短期から中期的な目標は、持続可能性と革新性に最大限の注意を払いながら、建設分野における技術的ハブとしての地位を確立することです。サンゴバンが権威ある「ダーウェント・トップ100グローバル・イノベーター」ランキングに9年連続で選出されているのは決して偶然ではありません。

イタリアにおけるサンゴバン

2,200

従業員数

27

生産拠点数

760

100万ユーロ
2019年の売上高

ピサで製造される環境に
優しいプロジェクトと最
先端製品についてご覧
ください

ファビオ・ダモンテ氏へのビデオイン
タビューをご覧ください
DG サンゴバン・グラス・イタリア

[動画をご覧ください](#)

私たちのビジョン：環境、安全、そして人々の幸福を尊重しつ
つ、現代の建築システムに向けたソリューションを実現するこ
と

ファビオ・ダモンテ、サンゴバン・グラス・イタリア 代表取締役



エッシテイ



アルトパッシオ



アップサイクリングを通じて、柑橘類などの食品産業の残渣に新たな命を吹き込み、セルロースに似た原料へと加工しています。

エッシティ イタリア グローバル製造事業部長、イヴァン・フェリーニ



[ウェブサイトをご覧ください](#)

オレンジから作られた紙で、より持続可能な社会へ。

ウェルビーイング、循環性、効率性。これらは、ストックホルムナスダックに上場するスウェーデン企業、エッシティの3つの目標です。同社はハンカチ、吸収性紙、ナプキン、トイレタリーなどのティッシュ素材の製造におけるリーダーです。

エッシティは1983年からイタリアに進出し、業界を代表する主要ブランドを展開しました。2000年代初頭にトスカーナ地方に進出し、現在4つの生産拠点を有します。2019年のグローバル売上高は約120億ユーロに達し、そのうち5億ユーロを従業員900名を擁するイタリア部門が占めました。同社はさらなる拡大を目指しています。過去2年間だけで、エッシティ・イタリアはトスカーナ州の製紙産業の中心地であるルッカ県アルトパッシオに、ナプキン生産の新たな卓越センターを設立するため4700万ユーロを投資しました。「この野心的なプロジェクトを短期間で完成させるにあたり、トスカーナ州の支援は決定的に重要でした」と、エッシティ・イタリアのグローバル製造部門オペレーションディレクター、イヴァン・フェリーニは語ります。

地域との関わりも重要なポイントです。「当社はスウェーデンにルーツを持ち、環境と地域社会の両面において、持続可能性は常に事業活動の核心にあります」。ここ数年、生産チェーン全体の環境負荷を低減する解決策が模索されてきました。まず代替繊維の開発から着手し、これによりバージンセルロースの使用量を削減可能となりました。例えば食品産業の残渣をアップサイクルする方法などです。「柑橘類の皮を加工すると、紙生産に適したセルロース類似の原料になります」とフェリーニ氏は説明します。2015年以降、エッシティ・イタリアは地下水使用量を20%、CO2排出量を11%削減しました。「循環型経済モデルの実現に向け、今後も投資を継続します」と同氏は付け加えました。

同様に複雑な課題が、文化面での取り組みとして提起されています。女性や高齢者向け衛生用品を取り巻くタブーを打破するための啓発キャンペーンを通じて、そして最近では、パンデミック下で世界中に広まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としての適切な手洗いキャンペーンに至るまで、その取り組みは続いています。

当グループは2030年までに毎日20億人の人々の幸福度向上を具体的な目標として掲げています。一方、社名「エッシティ」は「必須の」「必要不可欠な」を意味する「essential」と「necessity」の融合から生まれました。衛生と健康へのニーズに応えることは必須ですが、より良い生活の質への道は意識の向上を通じて開かれるのです。



トスカーナはティッシュペーパー生産において戦略的な地域です。

エッシティの沿革

1929年 • 1975年 • 1983年 • 2002年 • 2017年 • 2019年

スウェーデンにてSCAの名称で設立

1849年より衛生分野で活動するモルンリッケ社の買収

イタリア進出

トスカーナ州における生産施設の買収

SCAから独立した企業としてエッシティを設立、ストックホルム証券取引所ナスダックに上場

アルトパッシオにおける卓越センター開所

エッシティの世界について詳しく知る

エッシティ イタリア グローバル製造部門 オペレーションディレクター、イヴァン・フェリーニ氏へのビデオインタビューをご覧ください

[動画をご覧ください](#)



トスカーナ州の支援は、短期間で野心的な目標を達成する上で極めて重要でした

エッシティ イタリアグローバル製造オペレーションディレクター、イヴァン・フェリーニ



リバテイ・マゴーナ



リバテイ



25歳未満の採用者80名以上、投資額1,000万ユーロ：不透明な経済状況下での大きな賭けでしたが、その成果がようやく現れ始めています。

ジョヴァンニ・カルピーノ、マネージングディレクター
リバティ・マゴーナ社ピオビノ工場



[ウェブサイトをご覧ください](#)

若者、環境、未来：持続可能な鋼鉄の目標。

イタリアの歴史を形作ってきた場所があり、そこには今もその歴史の痕跡が残っています。リバティ・マゴーナはその一つです。歴史的な門には今も「マゴーナ・ディタリア」の刻印が残ります。1891年に国内唯一のブリキ板メーカーとして設立された工場の旧名です。

今日、リバティ・マゴーナは欧州鉄鋼業界で最も有能な生産者の一つであり、薄板亜鉛めっき鋼板および塗装鋼板の分野で業界をリードし、世界市場への進出を準備しています。年間70万トンの圧延鋼板製品を生産する能力を有し、主に建設、産業、家電、自動車分野向けに供給しています。従業員数は500名以上です。ここに至る道のりが全て順調だったわけではありません。

ほぼ100年にわたり株式市場に上場していましたが、1998年に欧州最大の鉄鋼メーカーであるウジノール・グループに買収されました。2002年2月にはアルセロール・グループ（後にアルセロール・ミッタル）の一員となりました。しかしこの解決策はマゴーナ・ディ・ピオンビノにとって理想的なものではありませんでした。この期間は特に困難な時期であり、労使紛争が頻発し、世界有数の鉄鋼メーカーという枠組みの中で生産が苦戦を強いられました。その後、2012年に酸洗工場が閉鎖されました。しかし2020年7月、1,000万ユーロの投資により同工場が再稼働しました。この投資は塗装工程の再始動と、25歳未満の従業員80名以上の雇用創出にも活用されました。

この断固たる措置は方向転換の兆しでした。実際、2019年7月1日、同社はGFGアライアンス傘下のリバティ・スチール・グループに統合されました。同グループは鋼材サプライチェーン全体にわたり、溶鋼・原料・再生材の生産から高付加価値精密鋼材までを統合するグローバル鉄鋼グループです。

同グループは年間1,800万トンの生産能力を有し、10カ国に200以上の生産拠点を展開し、従業員数は3万人を超えます。持続可能な鉄鋼分野のリーダー的存在です。

若さ、未来、環境——これら3つのキーワードが、ピオンビーノにおける新たな取り組みの幕開けを象徴しています。この地域では環境への配慮は決して新しいものではありません。例えば、井戸水に頼る代わりに海水を生産に利用し、その海水を淡水化するという積極的な取り組みが長年行われてきました。しかし、グループ全体が共有する目標は、2030年までにカーボンニュートラルを達成することです。

最新世代の太陽光パネルの設置により、マゴナの屋根を電力生産の表面へと転換することから始まります。

リバティ・スチール・グループ -

拠点

リバティ・スチールの高炉、工場、サービスセンター、流通拠点は、英国、欧州、オーストラリア、米国、中国にあります。

事業分野

建設、エネルギー、航空宇宙、自動車、インフラ

トスカーナ州とは、非常に困難な局面において、交流と支援を基盤とした良好な関係が常に築かれてきました。

ジョヴァンニ・カルピーノ、マネージングディレクター
リバティ・マゴーナ工場（ピオンビーノ）

リバティ・マゴーナの環境配慮型プロジェクトについて

ピオビーノのリバティ・マゴーナ工場のジョヴァンニ・カルピーノ社長へのインタビュー動画をご覧ください

[動画をご覧ください](#)



イネオス



ロジニャーノ・ソルベイ (リヴォルノ)

INEOS
THE WORD FOR CHEMICALS



INEOS
Project
B...

VIGILI DEL FUOCO

VIGILI DEL FUOCO

「イネオスがイタリアで特に評価したのは、企業と国の統治機関のニーズを仲介できる組織「インベスト・イン・トスカーナ」の存在でした。」

アンドレア・ヴィットーネ、INEOSロジニャーノ・ソルヴェイ工場CEO

INEOS
THE WORD FOR CHEMICALS

[ウェブサイトをご覧ください](#)

プラスチックはより環境に優しいものへと進化している

環境に優しいプラスチックは存在するのだろうか？産業用化学ポリマーの世界的リーダーであり、本社をスイスに置き、英国を拠点とするイネオスの世界に足を踏み入れたとき、まず学ぶのは、プラスチックには1種類だけではないということだ。むしろ、一般のイメージでは「プラスチック」という言葉と結びつけられる素材は数多く存在し、そのプラスチックはしばしば環境保護の名の下に犠牲にされがちである。しかし、問題なのは素材そのものではなく、その使い道であるということをおぼわすはならない。つまり、環境に優しいプラスチックは確かに存在するのだ。これは、イネオス マニユファクチャリング イタリアが長年取り組んできた課題である。歴史あるソルベイ工業団地内にあるロジニャーノ工場は、2005年に買収されました（同グループは1997年、会長兼筆頭株主のジム・ラトクリフ氏によってロジニャーノで設立されました）。同工場は高密度ポリエチレン（HDPE）の生産に特化しています。主な市場はボトルキャップ（生産量の55%）ですが、HDPEはケーブルから繊維、カートリッジから、最近私たちにもお馴染みとなった消毒液ボトルに至るまで、多岐にわたる用途に使用可能です。

「イタリアにおいてイネオスが特に評価したのは、事業主のニーズと国の統治機関との間を仲介するインベスト・イン・トスカーナという組織の存在でした」と、ロジニャーノ工場のCEOであるアンドレア・ヴィットーネは語ります。トスカーナ拠点は、グループ内で唯一、同社の研究開発部門を擁する場所でもあります。ここで初めて開発されたのがRecycl-INであり、循環型経済の構築に向けた研究の成果です。

一見普通のプラスチック顆粒に見えますが、その実態ははるかに複雑です：少なくとも30%の再生製品を含み、ロジニャーノ工場が開発・研究・生産された高性能ポリマーが添加されています。目標は再生製品の割合を増やしつつ、元の製品と同等の特性を維持することです。プラスチックの寿命を潜在的に無限に延ばす可能性を秘めたシステムです。しかし、イネオスは本業よりもスポーツ活動への貢献で一般に広く知られています。同社はF1のメルセデスチーム、ツール・ド・フランスに出場する自転車チーム、そしてサッカーチームをスポンサーしているほか、2019年に最も注目を集めたイベントの一つである「イネオス 1:59チャレンジ」を主催しました。このマラソン大会では、オリンピックチャンピオンのエリウド・キプチョゲが、チームの一丸となった取り組みにより、2時間の壁を破る快挙を成し遂げました。

イネオスはチームワークを非常に重視する企業です。同社は毎年、従業員に偉大なアスリートたちの功績を伝え、例えば「ツール・ド・フランス」の各ステージと同じ距離を走破するよう奨励しています。もちろん、チーム一丸となってです。

ロジニャーノ工場

2019年度 **186** 従業員数

57年 EDPE生産年数

30 売上高
100万ユーロ

15万トン 生産されたHDPEのトン数と販売量

グループ

従業員数23,000名

6,000万トン生産

26カ国に183の生産拠点

環境にますます優しいプラスチック、HDPEの可能性を探る

イネオス ロジニャーノ・ソルヴェイ工場
のマネージングディレクター、アンド
レア・ヴィットーネ氏へのビデオイン
タビューをご覧ください

[動画をご覧ください](#)



当社は、再生製品の高い割合を含みながら、元の製品と同等の特性と性能を維持したプラスチック材料をお客様に提供することを目指しています。

アンドレア・ヴィットーネ、イネオス ロジニャーノ・ソルベイ工場CEO



ソルベイ



ロジジャーノ

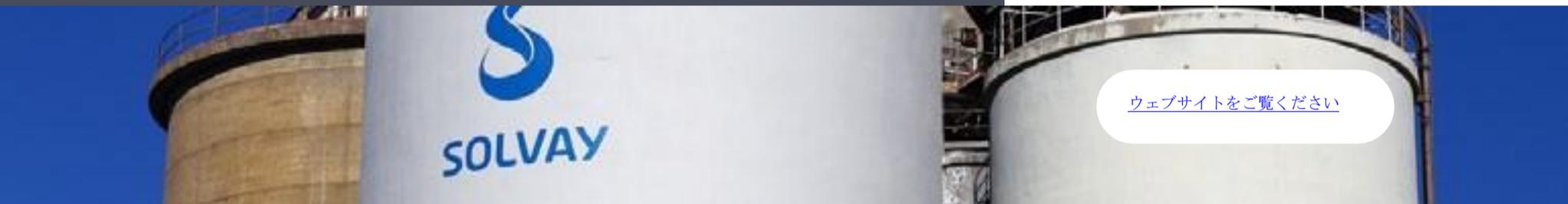


SOLVAY



今後10年間の最大の課題は環境、経済、社会面の持続可能性です。

ラファエレ・カラブレゼ・デ・フェオ、ソルベイ・イタリア 広報部長



[ウェブサイトをご覧ください](#)

トスカーナとイタリアの家庭で100年 - しかし重曹だけではない

イタリアで「ソルベイ」と聞けば、真っ先に思い浮かぶのは重曹でしょう。64カ国に24,500人以上の従業員を擁するソルベイグループは、特殊化学品分野における世界的なリーダーです。その存在は、ほぼすべての家庭のキッチンキャビネットにある万能パウダーという枠をはるかに超えています。

ソルベイは1912年以来、イタリアに拠点を構えています。この年、海からほど近い場所にロジニャーノ工業団地の基礎が築かれました。前世紀の初頭、この地ではすべてが機能性と効率性を重視して設計・建設されました。工業団地内には、日増しに、年を追うごとに要塞のような姿へと変貌を遂げていくこの施設に必要なレンガを生産できる高炉が備わっていました。これに加え、従業員の余暇のために設計された劇場、ソルベイ・ローイング・クラブ、管理センター、そして新たな生産スペースも整備されました。今日、この工業団地は世界的な化学分野の拠点となっており、多くの革新的な産業分野に不可欠な化学製品や、ハイテク市場向けの特殊高性能プラスチックを生産・輸出しています。同パークは循環型経済の実現に積極的に参画しており、酸性ガスの除去のための塩類回収や水の使用最適化から、公的機関との協力により建設された新しい蒸気・エネルギーコジェネレーションプラントに至るまで、よりクリーンな技術の開発に取り組んでいます。

「インベスト・イン・トスカーナとの関係は非常に積極的でした」とソルベイ・イタリアのパブリック・アフェアーズ部長ラファエレ・カラブレゼ・デ・フェオは語ります。「これにより戦略的な課題の解決が可能となりました」。例えば、競争力を維持しつつ排出量を削減するソリューションによるエネルギー生産コストの低減などが挙げられます。

循環型経済の分野では、ロジニャーノ工場はCO2排出の再利用プロセスを開発しました。回収・適切に濾過したCO2を生産サイクルに再導入する技術です。

「今後10年間の最大の課題は環境面、経済面、社会面のすべてにおいての持続可能性です」とデ・フェオは説明します。ソルベイグループは今後もこの課題に取り組んでゆきます。ハイテク応用分野も投資対象です。現在ロジニャーノ工場では電子機器市場向けに超高純度過酸化水素を生産しています。ソルベイはトスカーナ州にさらに二か所の工場を保有します。マッサ工場は電子機器向け、リヴォルノ工場はタイヤ分野に特化しています。

ソルベイグループ

1863年

ベルギーにてアー
ネスト・ソルベイ
により設立

64

国数

115

拠点数

24,100

従業員数

2019年の売上高は **102** 億ユーロ

ソルベイグループの事業
分野をすべてご覧ください

ソルベイ・イタリアの広報部長、ラファエレ・カラブレーゼ・デ・フェオ氏へのインタビュー動画をご覧ください

[動画をご覧ください](#)



リヴォルノ港のような現地の組織と連携することは重要です。物流は当社の事業にとって極めて重要な要素だからです。

ラファエレ・カラブレーゼ・デ・フェオ、ソルベイ・イタリア 広報担当ディレクター



ベーカー・ヒューズ



フィレンツェ



トスカーナのような地域に拠点を置くということは、強固な経済・起業家精神のシステムの一員となることを意味し、これは当社の事業にとって不可欠な要素です。

デイヴィッド・マラーニ、ベイカー・ヒューズ サプライチェーン担当副社長



Baker Hughes



[ウェブサイトをご覧ください](#)

エネルギーと産業を支えるグローバル企業

時代とともに様相は変わっても、フィレンツェにあるヌオーヴォ・ピニョーネの歴史ある本社は、トスカーナ州の産業地図において依然として重要な拠点であり続けています。170年にわたる歴史と、エンジニアリングおよびエネルギー分野における確固たる技術力を背景に、投資を呼び込む力を持っています。

現在、この工場は、石油・ガス市場向けのターボ機械およびコンプレッサーの設計・製造におけるリーダーであり、米国の技術大手であるベイカー・ヒューズの名を冠しています。ニューヨーク証券取引所（NYSE）に上場し、120カ国以上で事業を展開、従業員数6万人以上、売上高238億3800万ドルを誇るベイカー・ヒューズは、イタリア国内での事業の大部分をトスカーナ州に集中させています。

「この地域では、経験と革新への強い意欲、そして重要な相乗効果を生み出す官民連携が融合しています」と、ベイカー・ヒューズのサプライチェーン担当副社長、ダヴィデ・マラーニは説明します。2016年、トスカーナ州政府とインベスト・イン・トスカーナの支援により、この相乗効果はガリレオ計画として結実しました。これはインダストリー4.0の指針に沿い、革新的なデジタル化技術を用いたガスタービン・コンプレッサー開発のためのグローバルな卓越センター創設を目指す5カ年投資計画でした。

実際、ベイカー・ヒューズは4つの主要事業の一つであるターボ機械・プロセスソリューション（TPS）事業の世界本社をヌオーヴォ・ピニョーネに設置しています。約4,000名の従業員がここで働いており、1,000名以上の高度に専門化されたエンジニアを擁する研究開発センターと、世界中の顧客サイトに設置された機械の遠隔監視・診断を行うiCenterに分かれています。

ここで開発された革新的な「NovaLT12」タービンは、水素と天然ガスの混合燃料で駆動可能であり、トレヴィーゾにあるSNAM社のブースタープラントに設置される予定です。また、トスカーナ州の企業ルカート社も、ディエチモ工場で最近稼働を開始した新鋭の高効率コージェネレーションプラントにNovaLT12技術を採用しました。

フィレンツェ拠点に加え、同社は産業用モジュールの組立を行うアヴェンツァ拠点と、世界最大のベイカー・ヒューズ試験施設を擁するマッサ技術センターを有しています。マッサでは、同クラスで最も強力かつ効率的な航空機派生型ガスタービン「LM9000」の試験が実施され、NOx排出量の大幅削減と環境負荷低減を実現しました。

ベイカー・ヒューズはトスカーナにおいて、2050年までにゼロエミッション企業となるという取り組みと並行して、効率性を高めつつ排出量を削減する技術の開発を主要目標の一つとしています。

財務データ (2019年)

ベイカー・ヒューズ (グローバル)

受注高

26,973

10億ドル

売上高

23,838

10億ドル

ターボ機器およびプロセスソリューション

受注高

7,947

10億ドル

売上高

5,536

10億ドル

ベイカー・ヒューズは、顧客の環境目標達成を支援するため、低炭素技術を導入することで環境負荷の低減に取り組んでいます。

ベイカー・ヒューズ サプライチェーン担当副社長、ダヴィデ・マラーニ
ヒューズ

トスカーナ州における環境持続可能性の分野で達成された最近の目標をご覧ください。

ベイカー・ヒューズのサプライチェーン担当副社長、ダヴィデ・マラーニ氏へのビデオインタビューをご覧ください

[動画をご覧ください](#)



イーライリリー



セスト・フィオレンティーノ (フィレンツェ)



ますます複雑化する世界において、製薬業界には効果的かつ効率的な物流が求められています。このため、当社はトスカーナ・ファーマ・バレーと呼ばれる極めて革新的なプロジェクトを、インベスト・イン・トスカーナと共同で推進しています

クリスティアーノ・デモッリ、イーライリリーセスト・フィオレンティーノ工場長



[ウェブサイトをご覧ください](#)

物流、実験、持続可能性：これらがインディアナポリスに本拠を置く製薬大手企業のトスカーナ拠点における成長の原動力です

セスト・フィオレンティーノにあるイーライリリー本社は、140年前にインディアナポリスで創業した米国多国籍製薬企業の旗艦拠点です。親会社による同サイトへの継続的な投資がこれを証明しており、過去10年間だけで6億ユーロ以上が投じられました。この投資の大部分は、1959年に建設された歴史的工場の改築・拡張を経て2009年に竣工した新生産プラントの建設に充てられました。同プラントは現在、バイオテクノロジー医薬品、特に組換えDNA技術によるインスリン生産において、イタリア国内で最も先進的な拠点の一つとなっている。現在、この工場では世界のリリー社製インスリン総生産量の50%、ならびに2型糖尿病治療の革新的医薬品である自動注射器の65%を生産しており、欧州をはじめとする約70カ国で600万人以上の患者に恩恵をもたらしています。

さらに1億ユーロが、エンリケス・アニョレッティ科学高校が所在する近隣地域での拡張に投資され、同社の生産拡大と雇用創出が可能となります。この事業はトスカーナ州の支援と調整のもとで実施されました。また、州政府および「インベスト・イン・トスカーナ」プログラムと連携し、イーライリリーは「トスカーナ・ファーマ・バレー」と呼ばれる野心的なプロジェクトを推進中です。これは医薬品と原材料の輸出入における輸送コスト削減と物流改善を図るハイテクプラットフォームです。この目標にはGSKやモルテニなどトスカーナ製薬地区の主要企業が全て参加し、既存の競争優位性を損なうことなくネットワーク構築が目指されます。

イーライリリーのような企業にとって、医薬品の98%を輸出し、世界中でますます利用可能にすることを目指している以上、物流は全てを左右します。この多国籍企業は、糖尿病学、免疫学、神経学、腫瘍学の4つの研究分野で活動しており、2030年までに治療対象となる人々の数を6倍に増やすことを目指しています。

こうした理由から、イーライリリーは研究開発に重点的に取り組んでいます。2019年の世界全体の研究開発費は約55億ドル（55億9,500万ドル）で、売上高の25.1%を占めました。

特に神経変性疾患や腫瘍疾患など、健康問題に対して効果的な治療法が確立されていない治療領域に重点を置いています。しかしイーライリリーはコロナウイルス対策への取り組みを怠るわけにはゆきません。同社は現在新薬の試験を進めており、そのうちの1つは既にFDAから緊急使用許可を取得し、COVID-19患者の治療薬として使用されています。

イーライリリー・ワールド ワイド

33,000

従業員数

120

国数

55

8

8

臨床研究が行われている国

研究開発センター数

生産拠点数

223.2

売上高 (億ドル)

トスカーナ州は、地域の多くの公的・民間企業との連携による事業機会を提供しています：当社が生み出す波及効果により、リリーの従業員1人につき6人の雇用が創出されています。

クリスティアーノ・デモッリ、セスト・フィオレンティーノにあるイーライリリー工場長

セスト・フィオレンティーノ工場の歴史、トスカーナ州との共同プロジェクト、そして環境への取り組みをご覧ください

セスト・フィオレンティーノ工場長クリスティアーノ・デモッリ氏へのビデオインタビューをご覧ください

[動画をご覧ください](#)



ケルバー・ティッシュ

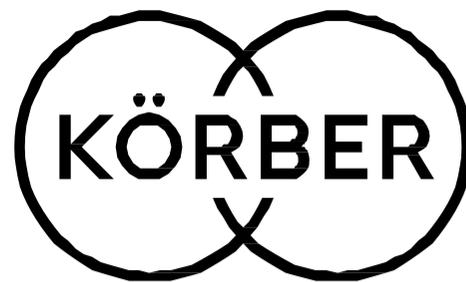


LUCCA



すべてはトスカーナで始まりました。ヨーロッパを代表する製紙産業の拠点であり、投資誘致と革新的な製品開発に最適な環境です。

オズワルド・クルス・ジュニア、ケルバー・ティッシュCEO



[ウェブサイトをご覧ください](#)

1966年以来、世界のティッシュ産業を支え続けるトスカーナの技術

地域戦略は常に成果をもたらします。ケルバー・ティッシュに買収されたファビオ・ペリーニ社の成功事例がそれを証明しています。トスカーナ州ティッシュ・バレーの中心地、ピストイア県とルッカ県の上に位置する同社は、衛生用品や家庭用品向けの多様な紙製品を裁断・エンボス加工・包装するための機械を設計・製造しています。

マザーリールをトイレトペーパーやキッチンペーパーのロールに加工する技術への投資は、まさに先見の明ある決断でした。これは欧州最大の製紙産業クラスターが存在するトスカーナでしか実現し得なかった事業です。

小規模企業としてスタートしたケルバー・ティッシュは、**2019年に2億8000万ユーロの売上高を達成しました**。現在ではドイツのケルバー・グループ傘下の産業巨人となり、主要顧客が当地に所在するだけでなく、トスカーナ州や研究機関との制度的連携が重要なパートナーシップを可能にし、投資やプロジェクトを促進したことで地域に深く根ざしています。これにより、効率性と環境配慮性を高めた新機械の開発が進められています。最新機種「コンステレーション™」は、市場投入から**5年で重要な目標である100ラインを達成しました**。5大陸にまたがる約**40の顧客**に販売されています。

ルッカの本社で開発されたケルバー・ティッシュの製造機械は、世界中へと出荷されています。同社は市場シェア**40%**を占め、欧州および南米ではそれぞれコンバーティング機械市場の**50%**と**90%**を占めるトップ企業です。これは、紙産業の多様なニーズに応えるべく、長年にわたり生産の多角化を図ってきた成果です。同社はコンバーティングに加え、包装やインターフォールディング（シートを1枚ずつ引き出す技術）も手掛けています。

スピードと環境配慮の観点から、ケルバー・ティッシュは**2020年のパンデミック**に対応し、トイレトペーパー製造機を低コストの「切り取り式」マスクロール生産に適応させる技術の特許取得しました。このマスクロールは竹由来の不織布製で、生分解性のあるティッシュを使用しています。

ケルバー・ティッシュ ワールドワイド



イタリア・ルッカ
ボローニャ



米国フロ
リダ州ド
ーラル



グリーンベイ、
ウィスコンシ
ン州、アメリ
カ合衆国



ジョインヴ
ィリ (ブ
ラジル)



上海 中国



日本、静岡

ケルバー・ティッシュの 革新的な製品とターゲッ ト市場を発見

ケルバー・ティッシュの最高経営責任
者、オズワルド・クルス・ジュニア氏
のビデオインタビューをご覧ください

[動画をご覧ください](#)



当社は卓越したソリューション、市場課題への積極的な取り組み、そして比類のない世界的なプレゼンスでお客様を支援します。

オズワルド・クルス・ジュニア、ケルバー・ティッシュCEO



トリガーノ



ポッジボンシ、サン・ジ
ミニヤーノ、
バルベリーノ・タヴェルネツレ (シ
エナ県)



イタリアはキャンピングカー生産において主要な役割を果たしており、生産台数ではドイツ、フランスに次ぐ欧州第3位のメーカーです

TRIGANO

トリガーノ社代表取締役、パオロ・ビッチ

[ウェブサイトをご覧ください](#)

シエナからヨーロッパまで、キャンピングカー業界は勢いを増し続けています：新規採用と新規市場

パンデミックの最中、「どんな危機にもチャンスが潜んでいる」という古い格言は、少々耳障りなものになってしまいました。しかし、ヨーロッパで販売される自動車の3分の1が生産されている、フィレンツェとシエナの間にあるイタリアのキャンパー・バレーを巡ってみれば、この俗説が存在する理由には一理あると認めざるを得ないでしょう。

ロックダウン後、キャンピングカー部門では需要が大幅に増加し、車両登録の傾向を再調整するほどで、シーズンを予想外の結果で締めくくりました。ロックダウン後の期間には新規登録が大幅に増加し、2020年の最初の10か月間は前年同期を上回る結果となりました。他の欧州諸国でも同様の増加が記録されており、これはキャンピングカーが安全な車両として新たな「認識」を得たためです。

ウイルスの流行により、「フリーツーリズム」が安全な旅行形態として再評価され、従来の主要層（小さなお子様連れの家族や高齢のカップル）とは異なる新たな市場が開拓されています。「キャンピングカーに関心を寄せる若者がますます増えています」と、トリガーノ・イタリアの各社を統括するパオロ・ビッチ社長は語りました。同社は30年以上にわたり業界をリードし、イタリア国内で50%以上の市場シェア（グループ全ブランド合計）を誇り、売上の80%を占める輸出に注力しています。フランスに本社を置く大規模なグループの一員であるトリガノ・グループの各社は、現在イタリア国内で1,500人を雇用しており、そのうち約900人がトスカーナにある各社の生産拠点で働いています。

トリガーノのイタリアにおける生産量の約80%は輸出されており、これはグループの欧州売上高の40%を占めています（主にドイツ、イギリス、フランス、ベルギー、北欧諸国）。イタリアで製造される車両の3分の2は、シエナからわずか数キロメートルの場所で生産されています。ここ数ヶ月、世界市場に新たなトレンドが現れています。「小型車、特にバンのセグメントが最も急速に成長しており、セカンドカーを多目的車に置き換える傾向が強まっています。自由気ままな休暇や自然との触れ合いは、今やイタリアの若者層が求める価値観に合致しています。イタリアはキャンピングカー生産において主要な役割を果たしており、生産台数ではドイツ、フランスに次ぐ欧州第3位のメーカーです。トリガーノのマネージングディレクター、パオロ・ビッチ氏は次のように述べています。「シエナからヨーロッパ全域に至るまで、キャンピングカー業界は勢いを失うことがありません。新規採用や新市場の開拓が進んでいます。従来のクラスターよりもグループとしての展開が重要になっています」とビッチ氏は付け加えています。

需要の全般的な拡大を受け、トリガーノは新たな投資を進めています。2021年1月からは、すべての工場で新規採用が行われる見込みです。キャンピングカー市場のように変動の激しい市場では、迅速な対応が不可欠です。トリガーノの近年の実績がこれを裏付けています。2017年、約200人の採用を伴う大規模な投資プログラムを実施した結果、同社は生産能力を大幅に拡大することに成功しました。「数多くの官僚的な問題を解決する上で不可欠だったインベスト・イン・トスカーナの支援にも感謝しています」と社長は述べ、「投資決定から12ヶ月後、我々は目標を達成し、フランスの社長さえも驚かせました」。

トリガーノ・グループ

700

トリガーノ・グループのイタリアにおける売上高 (100万ユーロ)

8,735

全世界の従業員数

63

欧州の生産拠点

25

ブランド数

1,500

イタリアの従業員数

3rd

トリガーノ イタリアはヨーロッパ
第3位のキャンピングカーメーカーです

「インベスト・イン・トスカーナ」の支援のおかげで、投資決定から12ヶ月で目標を達成し、フランスの親会社をも驚かせる結果となりました。

トリガーノ社 代表取締役 パオロ・ビッチ氏

トリガーノの数値と革新
をすべてご覧ください

パオロ・ビッチ代表取締役のインタビュー
動画をご覧ください

[動画をご覧ください](#)



ヴェナトール



スカルリーノ (グロッセート県)



「スカルリーノ工場は、プラント技術とそこで働く専門家の両面において、当グループの卓越した拠点の一つです。1年足らずで極めて革新的な顔料の開発を実現した要因です。」

フランチェスコ・パチーニ、欧州3工場のヴェネター工場長

VENATOR

[ウェブサイトをご覧ください](#)

汚染物質を分解する塗料から炭酸飲料まで：最先端顔料工場の内部

色彩豊かでありながら、高い省エネ性能を兼ね備えた世界。Altiris®は、光を反射することで夏場の建物の室温上昇を抑え、ひいては空調に必要な電力消費を削減する顔料であり、グロッセート県スカルリーノで初めて開発されました。この技術的成果は、チームの高度な専門性とグロッセート・ヴェナトル工場が開発された技術のおかげで、1年足らずで実現されました。

この工場は1972年から顔料を生産しており、現在では州内で最も重要な工場として、直接・間接雇用を合わせて400人を雇用しています。ここでは年間8万トンの二酸化チタンが生産されています。この白色顔料は、特殊な不透明性と反射特性を持ち、外装・内装用塗料、インク、プラスチックはもちろん、家電製品から化粧品・医薬品産業に至るまで不可欠な存在です。さらに、交通機関などによる環境汚染を軽減する触媒や製品にも使用されます。二酸化チタンを配合することで、汚染物質を吸収し空気の質を改善する塗料の開発が可能となります。またパンデミック時には、医療施設向けに容易に消毒可能な塗料の製造に極めて有用であることが実証されました。

特に困難な時期における、新たな協力の形。「私たちは、この地域との関係を特に誇りに思っています」と、欧州の3つのヴェネター工場を統括するフランチェスコ・パチーニ所長は語ります。「スカルリーノ工場の従業員の85%は、グロッセート県出身です。世界中に4,000人以上の従業員を擁し、英国に本社を置き、ニューヨーク証券取引所に上場しているヴェネターは、顔料および化学添加剤の製造を専門とする世界最大級の化学企業の一つです」。

スカルリーノで製造される製品は、主に欧州市場向けですが、米国やアジア向けのものもあります。しかし、二酸化チタン製造プロセスで副産物として生じる材料にも、独自の活用ルートがあります。今日、サーキュラー・エコノミーが流行語となっている中、この言葉にさらに具体的な意味を与えている人々がいるのです。スカルリーノでは、すでに「廃棄物ゼロ」の原則に基づいた取り組みが進められています。ここでは、生成される二酸化炭素（極めて高純度）さえも回収され、液化されます。その行き先は？炭酸飲料です。この二酸化炭素は、イタリアの同用途市場で約3分の1のシェアを占める専門企業に販売されています。一方、硫酸鉄や化学石膏は、建設業や農業で利用されています。

二酸化チタンが使用される全分野

屋内・屋外用塗料
プラスチック
繊維
製紙

インク
建築
医薬品
化粧品

トスカーナ州は当社のサステナビリティ戦略策定を支援しています：循環型経済に関する協定を最近締結しました

フランチェスコ・パチーニ（欧州3工場統括責任者）

世で最も延性のある顔料について、詳しくはこちら

フランチェスコ・パチーニ氏（欧州3工場のヴェナター工場長）のインタビュー動画をご覧ください

[動画をご覧ください](#)



ヴェネチア テクノロジー イタリア



ファウリア (ピサ県)



インベスト・イン・トスカーナと連携し、電力・水素事業に携わる企業による地域ネットワークを構築し、グリーン移行を推進しています。

リッカルド・トンチェッリ - 工場総支配人

vitesco
TECHNOLOGIES

[ウェブサイトをご覧ください](#)

自動車産業の未来は電気にある。ピサ県はその拠点となり得る。

内燃機関用油圧部品の製造を専門とする自動車業界のリーディングカンパニーにとって、事業を完全に転換し電気自動車の未来へ踏み出す決断は容易ではありません。ましてや、グリーン移行が人類史上最も深刻なパンデミックの一つと重なる状況ではなおさらです。しかし、まさにこうした状況こそが、歴史を刻む決断が下される瞬間なのです。

コンチネンタルグループのパワートレイン部門であるヴィテスコ テクノロジーは、すでに完全自律運転へ移行しつつある中、より伝統的で堅実な事業に別れを告げ、高性能かつクリーンな技術の開発に専念することを決定しました。これは世界中の工場の大半、ファウリアとサンピエロの拠点を含むピサ工場も巻き込むことを意図した、大きな挑戦です。

ピサ郊外地域は現在、電気と水素分野における国内の拠点となることを目指しており、これはヴィテスコ テクノロジーが同地域に構築したネットワークも一因となっています。「イタリア産業連盟 (Confindustria) と連携し、ピサ大学をはじめとする地域の高等教育機関と常に連携を図っています」と、ヴィテスコ テクノロジーイタリア支社のリッカルド・トンチェッリ総支配人は語ります。「さらに先進技術プロジェクトの開発を支援する革新的なスタートアップ企業や中小企業とも協力しています。地元企業と機敏に連携できる点は、親会社からも評価されている強みです」。

私たちはこれまでトスカーナ州と複数の協定を締結しており、最新の協定ではピサ大学との連携による電動モーター関連技能習得のための特定研修コースに対し、100名のエンジニアおよび機械技術者を対象とした資金提供を規定しています。また「インベスト・イン・トスカーナ」のサービスを通じ、トスカーナ州で活動するハイテク企業ネットワークとの産業連携を強化し、新たな協力関係を構築する新たなプレイヤーの発掘を計画しています。

「さらに、ピサ地域には水素分野で活動する企業が多数存在することを最近発見しました」とトンチェッリは付け加えます。「これらの企業との提携関係を構築し、燃料電池応用への移行に向けた準備を整えたいと考えています。州政府もまた、大統領府内に設置した作業部会を通じて、持続可能なモビリティへの転換プロセスを支援することを約束しています。その焦点はインダストリー4.0と、経済開発省をはじめとする他の公的機関の参画にあります」。

ピサ工場はフル稼働しています。「4月のロックダウン期間中、私たちは新型コロナの影響を強く受けました」とトンチェッリ氏は語りました。「再開までには少し時間がかかりましたが、9月以降、受注数は文字通り爆発的に増加しました」。

ヴィテスコの数値

50

世界中の拠点数

40,000

従業員数

78

2019年売上高
億ユーロ

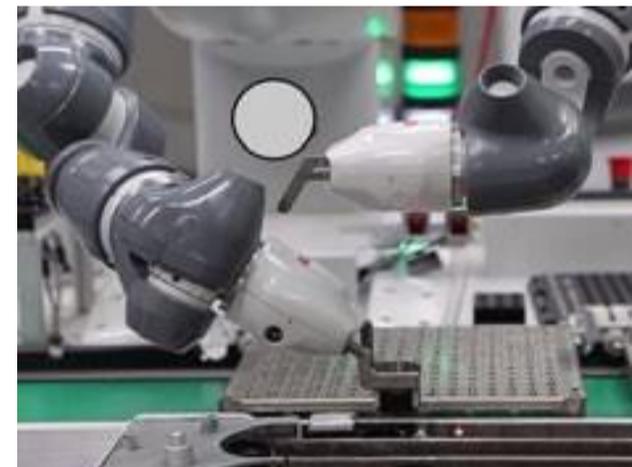
当社は地域のトップレベル学術機関と継続的な関係を築くと同時に、中小企業やスタートアップ企業も先端技術プロジェクトの開発を支援しています。この価値は親会社からも認められています。

リッカルド・トンチェッリ - 工場総支配人

ヴィテスコの詳細は
こちら

リカルド・トンチェッリ工場長へのインタビュー動画を見る

[動画をご覧ください](#)



GSK



シエナ、
ロジア

#ADX4491A



“ ロジアの生産拠点はワクチン分野において唯一無二の存在です。絶え間ない革新により、ステークホルダーからの信頼を獲得し、投資と新規プロジェクトを誘致してきました。

ロジア生産拠点責任者、デビッド・サーブ ”



[ウェブサイトをご覧ください](#)

シエナ丘陵に佇む、新たなワクチンへの道を開く科学的卓越性

未来を切り拓くには、あるいは単に未来をより良いものにするだけでも、革新的なアイデアが必要です。そうしたアイデアの一つが、絵葉書のような美しいトスカーナの中心地で形となり、髄膜炎菌B型の感染を90%削減することを可能にしました。これは「リバーズ・ヴァクシノロジー」と名付けられ、ウイルスそのものではなくゲノミクスを活用してワクチンを設計する、新たな手法を提示しています。この手法を初めて実践したのは、世界的に著名な科学者であり、トスカーナ州のビジネスアドバイザー、そしてグラクソ・スミスクライン（GSK）ワクチン部門の研究開発責任者を務めるリノ・ラプーオリ氏です。

私たちは、2015年に英国の多国籍企業GSKによって買収された、世界有数のワクチン研究拠点にいます。しかし、この施設の歴史は1904年に遡り、当時、アキレ・スクラヴォ医師が炭疽菌に対する血清を開発したことに始まります。この発見をきっかけに、シエナ地方に設立された企業は、まずイタリア全土へ、そしてやがては全世界へとワクチンを供給するに至り、人材や海外投資を呼び込むことのできる、バイオメディカルおよび技術分野における「エコシステム」を築き上げました。

GSKは、3つの研究開発センターのうちの1つをシエナに設立しました。一方、そこから数キロ離れたロジアには、抗菌ワクチンの製造における卓越した研究拠点があります。ここは、髄膜炎菌の主要なすべての菌株に対するワクチンが製造されている世界で唯一の施設であり、またGSKのネットワーク内において、髄膜炎菌B型用ワクチンと帯状疱疹用ワクチンという2つの最新ワクチンを製造している唯一の施設でもあります。また、最近では新たな戦略的生産ラインとして、COVID-19ワクチン用のAS03アジュバントの製造も開始されました。GSKが1,600万ユーロを投じて設計した「スマートラボ」を通じて、研究と生産の連携が図られており、これにより作業フローの構築と作業スペースの最適化が実現しています。最後に、2019年には新たな品質管理棟（投資額4,200万ユーロ）が開設され、これによりワクチンの検査にかかる時間と回数を削減することが可能となりました。年間約5,000万回分のワクチンを生産し、54カ国へ輸出しているこの企業の多角的な拠点網は、世界の公衆衛生の向上に大きく貢献しています。

トスカーナ州の強力な推進力への同社の関与により、ヒトの健康に応用されるバイオテクノロジー分野の研究を支援するインキュベーターとして、トスカーナ生命科学財団が同地域に設立されました。トスカーナ州はこのプロセスにおいて、資金提供だけでなく、大学・行政機関・産業界との連携において特に重要な役割を果たし、地域全体に好影響をもたらしました。

GSKの世界的な研究活動の数値

95

市場数

99,000

従業員数

37+15

開発中の医薬品37品目および
GSKワクチン15品目（2020
年第1四半期）

46

2019年に研究開発に投資した金額
（単位：億ユーロ）

トスカーナ州の貢献により、シエナでは、健康分野に適用されるバイオテクノロジー分野を支援・促進できるエコシステムを構築しています。

GSKシエナCEO兼GSKワクチン部門チーフサイエンティスト、リノ・ラッポリ

シエナにおけるGSKの歴史とプロジェクトの詳細はこちら

GSKシエナのマネージング・ディレクター兼GSKワクチン部門のチーフ・サイエンティストであるリノ・ラッポリ氏と、ロジア製造拠点のディレクターであるデビッド・サーブ氏へのインタビュー動画をご覧ください。

[動画をご覧ください](#)



ヤンマーR&D ヨーロッパ



フィレンツェ



日本人は、美に囲まれることが思考を促進すると固く信じている。この信念とネットワークとしての機能が相まって、トスカーナの成功を支えてきました。

アレッサンドロ・ベリッシマ、ヤンマーR&Dヨーロッパ部長



[ウェブサイトをご覧ください](#)

農業、船舶、建設、エネルギーシステムにおける持続可能な未来のためにトスカーナで設計された日本のロボティクスと人工知能

ミケランジェロ広場からわずか数メートルの小さなヴィラで、フィレンツェのパノラマの美しさと日本の厳格さが融合しています。ここが、日本の多国籍企業ヤンマーの欧州研究センターとして2011年に設立されたヤンマーR&Dヨーロッパの本社所在地です。長い伝統を持つグループの一員でありながら、若く活気あふれる企業です。イタリア人と日本人を含む23名の従業員の平均年齢は35歳、80%が工学系卒業生です。

ヤンマーは1912年に山岡孫吉によって創業され、現在も同家系の山岡健人が経営を継承しています。大阪の本社と世界中の生産・管理・販売・研究拠点を合わせ、グループ全体では2万人以上の従業員を擁し、建設、農業、船舶、産業用エンジン、エネルギーシステムといった戦略分野における先端技術と専門知識を駆使して、64億ユーロの売上高を達成しています。

ヤンマーは、農家のための小型ディーゼルエンジンの開発から始まり、1世紀以上にわたり、絶えず進化を続け、効率的で信頼性が高く、持続可能性に貢献できる製品ラインを設計・製造してきました。例えば、農業作業をより安全に、疲労を軽減し、環境への影響を抑えるために設計された無人トラクターやブドウ栽培用ロボットの開発がその好例です。

ロボティクスは、人工知能（AI）と並んで中心的なテーマの一つです。ここで、フィレンツェに拠点を置き、ポンテデラの試作ラボの支援を受ける研究開発センターが重要な役割を果たしています。同チームは、インテリジェント・エネルギー向けの高度なアルゴリズムとシステムを開発しています。日本人は、美に囲まれることが思考を豊かにすると固く信じています。この考えと、ネットワークとして機能する能力が相まって、トスカーナ地方の成功に寄与してきました。ヤンマーR&Dヨーロッパの日本ロボット工学・人工知能担当マネージャー、アレッサンドロ・ベリッシマ氏は、農業、船舶、建設、エネルギーシステム管理、再生可能バイオエネルギーシステム、革新的なエンジン制御システム、そして統合型・自律型ロボットシステムにおける持続可能な未来のために、トスカーナで設計されたソリューションを推進しています。。

「トスカーナに拠点を置く利点は、一部には行政機関からの支援にあり、また一部には、私たちのアイデアを形にする上で不可欠な、数多くの優れた地元企業が存在することにあります」と、ヤンマーR&Dヨーロッパ責任者のアレッサンドロ・ベリッシマ氏は語ります。「このダイナミックな環境の中で、私たちは戦略的なビジョンを持ち、将来のトレンドや市場の需要がどうなるかを把握することができるのです」。研究の新たなフロンティアの一つとなるのが「マリン」分野であり、特にサステナビリティに重点が置かれます。ヤンマーは高効率な船舶用エンジンや推進ソリューションの研究を進めており、トスカーナに研究センターを構えていることは大きな強みとなっています。ヨット産業に携わる地元の企業は業界屈指の水準を誇っており、ヤンマーR&Dヨーロッパが関係構築や提携を進められるパートナーとしても最適です。

ヤンマーのグローバル展開

北米

ヨーロッパ

アジア太平洋地域

ラテンアメリカ

中東・アフリカ

船舶産業はヤンマーにとって戦略的な分野であり、トスカーナ地方の造船会社は、当社がすでに有意義な関係を築きつつある同分野の主要企業の一つです。

ヤンマー R&D マネージャー アレッサンドロ・ベリッシマ

トスカーナで設計されたヤンマーの歴史と製品について詳しくご説明します

ヤンマーR&Dヨーロッパ マネージャー アレッサンドロ・ベリッシマ氏へのインタビュー動画をご覧ください。

[動画をご覧ください](#)



タレス・イタリア



セスト・フィオレンティーノ



トスカーナ州およびインベスト・イン・トスカーナとの関係により、パートナーシップを構築し、現在世界の主要空港で使用されている技術の開発において具体的な支援を得ることができました。

THALES
Building a future we can all trust

ファブリツィオ・モンサーニ、タレス・イタリア マネージングディレクター兼カンントリーディレクター

[ウェブサイトをご覧ください](#)

旅行の安全を支える技術は、世界中の空港や駅向けのソリューションを開発する世界有数の研究拠点であるフィレンツェで開発されました。

オマーンのマスカット空港とサララ空港、台湾の高雄トラム23駅、ニューヨークのジョン・F・ケネディ国際空港第4ターミナル、そしてエジプトのカイロ地下鉄——これらに共通する点は何でしょうか？これらはすべて、何百万人もの乗客が利用するインフラです。それだけではありません。これらはすべて、航空宇宙、防衛、輸送、セキュリティ、デジタルIDの分野で世界をリードするフランスの大手企業タレスの子会社であるタレス・イタリアの、セスト・フィオレンティーノ拠点が開発した技術ソリューションに基づくセキュリティシステムを導入しています。

パリ証券取引所に上場している同社は、68カ国で事業を展開し、世界中で8万人の従業員を擁しています。1988年からイタリアに進出しており、500名以上の従業員を擁するセストの拠点は、セキュリティソリューションおよび空港運営管理におけるグループの世界的な専門拠点としての地位を確立しています。

ここでは、各種業務をより容易かつ効率的にする管理ニーズを満たす統合システムだけでなく、消防からチェックイン、搭乗口から手荷物ベルト、券売機からショッピングセンターに至るまで、最も運用面での側面に対するソリューションも設計しています。

今日、タレス・イタリアのセスト工場は、同地域の他の組織と連携・統合されています。その筆頭となるのがトスカーナ州です。同州は当社の活動を支援しており、最近では、タレスや同地域の他の多国籍企業が推進する高度な研修プロジェクト「ビッグ・アカデミー」の設立を支援しました。このプロジェクトは、情報技術など様々な分野のサプライチェーンに携わる中小企業の将来の管理職を目指す人材を対象としています。その目標は、共に成長することです。1930年に発電機の製造を開始したフィレンツェの小さな企業、シエッテの場合と同様です。トスカーナ州およびインベスト・イン・トスカーナとの関係により、私たちはパートナーシップを構築し、現在では世界主要空港で使用されている技術の開発において具体的な支援を得ることができました。ファブリツィオ・モンサーニ（タレス・イタリア マネージング・ディレクター兼カンントリー・ディレクター）旅行の安全を支える技術は、世界中の空港や駅向けのソリューションを開発する世界的な卓越センターであるフィレンツェで生み出されました。

セスト・フィオレンティーノにある同社の工場では、その後、多国籍企業ITTに買収され、さらにアルカテルに引き継がれました。この貴重な産業遺産こそが、フランスの巨大企業タレスに、この地の実情とその革新的な能力への関心を寄せさせたのです。これが、同社にとって最も重要な工場の一つをここに開設する礎となりました。現在、同工場は国際的に権威ある受注を獲得し、テロリズムからサイバー攻撃、さらには新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関連する健康危機に至るまで、今日の課題に立ち向かうためにますます戦略的となる技術への投資を続けています。

タレスの数値

68

国数

80,000

従業員数

10

投資額（億ユーロ）
研究開発における取り組み

タレスは、移動を余儀なくされる人々の安全を確保するため、世界的なパンデミック問題の改善に取り組んでいます。

ファブリツィオ・モンサーニ、タレス・イタリア マネージングディレクター
兼カントリーディレクター

タレスがサイバーセキュリティ分野で世界をリードする企業となった経緯をご覧ください。

ファブリツィオ・モンサーニ（タレス・イタリア マネージングディレクター兼カントリーディレクター）のインタビュー動画をご覧ください

[動画をご覧ください](#)



エサオテ



フィレンツェ



携帯型超音波スキャナーは、Covid 19との闘いにおいて重要な役割を果たしています。エサオテは、この緊急事態に対応するため、世界規模で生産体制を調整するという課題に取り組んでいます。

エウジェニオ・ビグリエリ、エサオテ最高執行責任者



[ウェブサイトをご覧ください](#)

医療画像診断分野の世界的リーダーにおけるトスカーナの卓越性

「見えないものを見続ける」——これが、医療診断システムの設計・製造に尽力する多分野にわたるチームのモットーです。1980年代初頭、ジェノヴァの企業（Esacontrol）とフィレンツェの企業OTE（Officine Toscane Elettromeccaniche）が合併して設立された国際グループ、エサオテは、フィレンツェにプローブおよびトランスデューサーの世界的な研究開発拠点を構えています。

このグループはこれまで、数多くの重要な節目と成果を経験してきました。スペースシャトルでの宇宙ミッションへの参加から、探査機の設計に対するレッドドット・デザイン賞などの受賞、そしてADIコンパッソ・ドーロ賞などの栄誉に至るまでです。

「プローブは超音波診断装置の不可欠な構成要素です。なぜなら、プローブが画像の質を左右し、医師と患者の信頼関係を深めるからです」と、エサオテの最高執行責任者（COO）であるエウジェニオ・ビグリエリ氏は説明します。現在、この多国籍企業は世界トップ10に入る画像診断機器メーカーの一つであり、約80カ国で事業を展開しています。2019年の連結売上高は約2億1,950万ユーロ、従業員数は1,200名を超えます。

この施設は、トスカーナ地方と完全に融合しています。フィレンツェにあるプローブ製造の卓越センターのサプライヤーには、20社以上の地元企業が含まれており、そのほとんどが中小企業です。また、長年にわたり、トスカーナの大学、CNR（イタリア国立研究評議会）、および地域の医療システムと活発な連携を図ってきました。トスカーナ州は、インベスト・イン・トスカーナプログラムを通じて、重要な支援を提供しています。「トスカーナ州は、企業と肩を並べて協力し、発展のための条件を整えることが、投資を呼び込み、安定した雇用を創出するための不可欠な前提条件であることを理解しています」と、エサオテの最高経営責任者（CEO）であるフランコ・フォンタナ氏は述べています。

エサオテのトスカーナにおける近年の歴史は、特に二つの節目によって特徴づけられています。

最初の出来事は2016年、フィレンツェにある歴史ある製造工場の改修と、セスト・フィオレンティーノに3,000平方メートルの敷地を有するハブを設立したことでした。このハブでは、エサオテの超音波スキャナーに関する試験から世界中への出荷に至るまでのすべての物流業務が行われています。2つ目の出来事は2018年、エサオテの株式が中国の投資家コンソーシアムによって取得されたことです。

2020年、エサオテは新型コロナウイルス感染症による健康危機に対応するため、集中治療や救急医療でより機能的なポータブルモデルへの生産転換を実現しました。

一方、この夏、トスカーナ州、フィレンツェ市、トスカーナ・ライフサイエンス財団との間で締結された覚書に基づき、エサオテ社は、新型コロナウイルス感染症との闘いにおいて不可欠なツールである肺換気技術および医療用呼吸装置の開発を進める計画です。

エサオテのグローバル展開

3	3	1200	14	80
研究開発センター ジェノヴァ、フィレンツェ、マーストリヒト	生産拠点 ジェノヴァ、フィレンツェ、シッタード	従業員数	世界中の支店数	現地販売代理店数

当社は、診断の質を向上させ、製品ラインナップを刷新するために不可欠な、トスカーナ全域における機関間および医学・科学分野のパートナーシップを構築してきました。

フランコ・フォンタナ最高経営責任者



エサオテがトスカーナ州と共同で展開する、今後の投資分野や新規プロジェクトをご覧ください。

エサオテの最高執行責任者（COO）であるエウジェニオ・ビグリエリと、最高経営責任者（CEO）であるフランコ・フォンタナのビデオインタビューをご覧ください。

[動画をご覧ください](#)



ケリング

⑨ フィレンツェ



当グループは、イノベーションと、より責任ある事業展開を掲げ、イタリアへの投資を継続し、優秀な人材を惹きつけていくことを目指しています。

K E R I N G



[ウェブサイトをご覧ください](#)

職人技、技術力、経営力の卓越性：トスカーナとの良き関係

ケリングは、ラグジュアリー分野において事業を展開するグローバルグループであり、グッチ、サンローラン、ボッテガ・ヴェネタ、バレンシアガ、アレクサンダー・マックイーン、ブリオーニ、ブシュロン、ポメラート、ドド、キーリン、ユリス・ナルダン、ジラルド・ペルゴ、ケリング・アイウェアなど、最も有名なファッション、皮革製品、ジュエリー、時計のブランドの発展を推進しています。2019年末時点で、グループは世界中に約38,000人の従業員を擁し、159億ユーロの売上高を達成しています。

イタリアにおける外国企業グループの成功事例として、ケリングは20年以上にわたりイタリアで事業を展開し、特にフィレンツェとトスカーナにおいて投資面で成長し続ける重要な役割を担っています。イタリア国内で11,000人以上を直接雇用する同グループは、革新とより責任あるビジネスの発展を掲げ、国内における職人技、技術、経営のスキルと卓越性への投資を継続し、最高の才能を引き寄せることを目指しています。

フィレンツェとトスカーナは、数十年にわたる事業展開と投資を通じて、この地域との良好な関係を築いてきたことから、当グループにとって常に重要な役割を果たしてきました。この関係は、2020年1月にフィレンツェ市長からフランソワ＝アンリ・ピノー氏に「フィオリノ・ドーロ」が授与された際、さらに強固なものとなりました。フィレンツェとその都市圏は、カゼッリーナにある歴史的な本社や、皮革製品とフットウェアのための最先端の工業的職人技と実験の拠点である「グッチ・アートラボ」を擁し、グッチの鼓動する心臓部となっています。フィレンツェ郊外に2018年に開設された、約37,000平方メートルの広さを誇る「グッチ・アートラボ」は、トスカーナ地方全域に広がる各製品カテゴリーの工場、パートナー、サプライヤーからなる広範なネットワークと相まって、このフィレンツェ発のグローバルブランドにとって不可欠な成功要因となっています。

フィレンツェは、1735年以来、純白の磁器における高度な芸術的製造技術において、イタリアの卓越性を最も高く体現するブランド、リチャード・ジノリの本拠地でもあります。2013年よりケリング・グループの一員となったリチャード・ジノリは、常に建築、デザイン、そしてトスカーナのファッション界における偉大な人物たちの名と結びついてきました。同グループは、イノベーションとますます責任ある事業展開を掲げ、イタリアへの投資を継続し、最高の才能を集めることを目指しています。職人技、技術、経営における卓越性：これらがトスカーナとの好循環を生み出し、リチャード・ジノリは「メイド・イン・イタリア」の真のアイコンとして国際的に確固たる地位を築いています。

バレンシアガやサンローランといった同グループのフランス系ブランドも、トスカーナに生産と職人技のルーツを持ち、皮革製品や靴の重要な工場や製品開発センターを構えています。バレンシアガは最近、イタリア初の生産・研修センターの設立を発表しました。このセンターは2021年からチェッレート・グイディに建設され、最大300人を雇用する予定です。ケリング・グループにおいて売上高第2位のブランド（2019年末時点で20億ユーロ超）であるサンローランは、2022年末よりスカンディッチに約28,700平方メートルの敷地を確保し、「アトリエ・マロキネリー・イヴ・サンローラン」を皮革製品事業開発の拠点とする予定です。同施設では約600人が雇用される見込みです。。

また、トスカーナ州では、同グループがプラートに「テスト・イノベーション・ラボラトリー（TIL）」を間もなく（2021年上半期）開設すると発表しました。同施設では、さまざまなカテゴリーの素材や完成品に対して、技術的および化学的な試験を実施する予定です。

ケリング・グループ

38,000

従業員数（全世界）

11,000

イタリア国内の直接雇用
従業員数

159

2019年売上高
億ユーロ

フィレンツェとトスカーナは、数十年にわたる事業展開と投資を通じて、この地域との良好な関係を築いてきたおかげで、当グループにとって常に重要な役割を果たしてきました。

ケリング・グループによるトスカーナ州への今後の投資：

2021

バレンシアガ
イタリア初の生産・研修センター
チェッレート・グイディ

2021

ケリング・グループ
テスト&イノベーション研究所（TIL）
プラート

2022

サンローラン
アトリエ・マロキネリー
イヴ・サンローラン
スカンディッチ



GINORI
1735
ITALIA



invest in tuscany

トスカーナ州は、この電子書籍を通じて、地域全体で価値を創造しているすべての企業を称えたいと考えています。門戸を開き、この物語を伝える機会を与えてくださった各機関に、心より感謝申し上げます。。

ベーカー・ヒューズ、イーライ・リリー、エサオテ、エッシティー、GSK、イネオス、ケリング、ケルバー・ティッシュ、リバティ・マゴーナ、サンゴバン・イタリア、ソルベイ、タレス・イタリア、トリガーノ、ヴェナツール、ヴィテスコ・テクノロジーズ・イタリア、ヤンマーR&Dヨーロッパ

編集プロジェクト管理：トスカーナシステム財団

